



# 二戸労基署ニュース

## 冬季特有災害の防止について

### 暖房機具や調理器具による一酸化炭素中毒にご注意を

#### 【一酸化炭素中毒とは】

人間は空気を吸入し、血液中の『ヘモグロビン』によって必要な酸素が体内に運搬されます。

一酸化炭素は酸素の約250倍『ヘモグロビン』と結合しやすく、血液の酸素運搬能力を低下させ、酸素欠乏状態を招きます。

一酸化炭素中毒の症状は最初に頭がフラフラする、顔が火照る、などといった症状ですが、ひどくなると頭痛やめまい、吐き気などが起こり、最終的には意識障害や意識消失へと重症度が増していきます。

ある一定の高濃度に達すると、窒息から即、死亡ということも起こり得ます。

顔の火照り感や頭痛といった段階では、暖気にさらされているとして気づかないケースが多く、暖房をしている室内では、温度もかなり高くポカポカしている状態であるため、フラフラしたり火照ったりしても、それが中毒による症状だと分からないことが多いです。

また、頭痛や吐き気は風邪の症状と誤解することが多く、一酸化炭素が無味無臭であることより原因として思いつかばないため、病院に受診しても一酸化炭素中毒という診断と結び付かないことがあります。

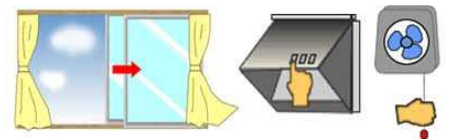


#### 【一酸化炭素中毒の防止】

##### 十分な換気を行う

十分な換気により、室内の一酸化炭素濃度が下がることから、暖房機具や調理器具を使用する際は換気扇の使用や定期的に窓などを開けるなどして換気を十分に行いましょう。

また、暖房機具や調理器具を使用中に少しでも異常を感じたら、使用を中止するとともに十分な換気を行いましょう。



##### 定期的な点検と清掃を行う

不完全燃焼が起これば一酸化炭素が発生することから、暖房機具や調理器具の定期的な点検と清掃を行いましょ。なお、室外へ煙突等により排気を行っている場合でも、雪や鳥の巣などにより排気が不十分となり、室内へ一酸化炭素が逆流することがあるので、排気設備についても点検と清掃を行いましょ。

##### 使用方法を守る

発動発電機やバーベキュー用コンロなど屋外での使用が想定されている火気器具等は屋内では使用せず、火気設備・器具の使用法を守りましょ。

**【注意】 労働安全衛生法では、倉庫の内部など自然換気が不十分なところで、内燃機関を有する機械を使用することを禁止しています。(労働安全衛生規則第578条)**

##### その他

一酸化炭素は、無色・無臭で気が付きにくい気体です。一酸化炭素を感知する警報器を設置することも早期発見に有効です。

## 冬季の転倒災害を防止しよう！

二戸労働基準監督署管内で平成 15 年から 24 年までの過去 10 年間に発生した業務中の転倒災害は全災害の約 15% (1,219 件中 187 件) を占めています。

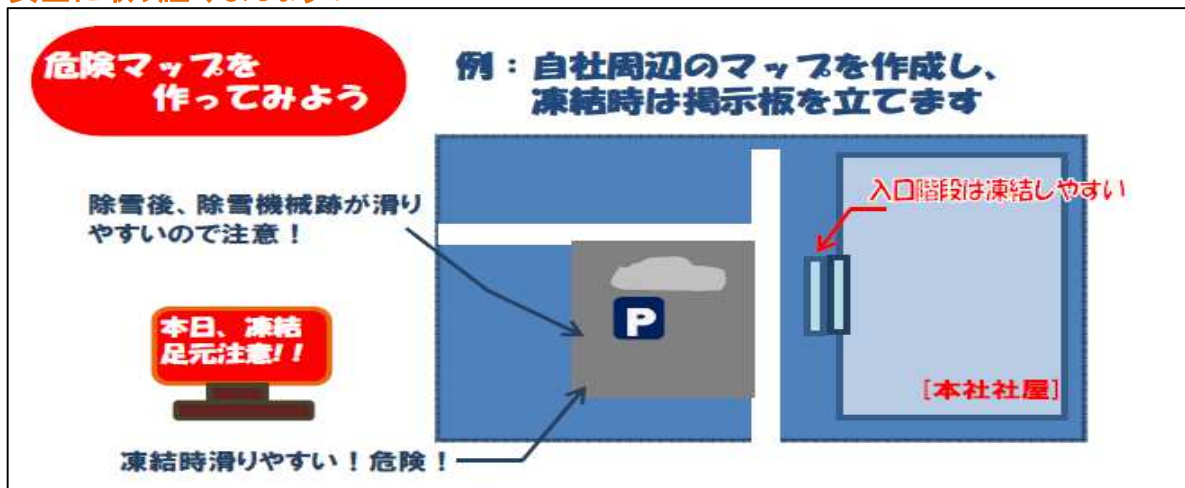
降雪や凍結が生じる 1 月又は 2 月に転倒災害が月間の労働災害の半数を占めた年もあります。

約 8 割の転倒災害が通路や道路で発生しています。



年	24 年	23 年	22 年	21 年	20 年	19 年	18 年	17 年	16 年	15 年
労働災害(年)	121	144	114	101	104	133	136	116	104	146
" (1~3 月)	41	34	25	23	31	31	39	36	29	31
内、転倒(1 月)	3	4	6	2	8	0	7	1	3	4
内、転倒(2 月)	6	2	0	1	6	1	4	4	1	1
内、転倒(3 月)	6	0	1	0	1	1	2	2	1	4
転倒災害の割合	37%	18%	28%	13%	48%	6%	33%	19%	17%	29%

## 見える安全に取り組みましょう！



## 靴を選ぼう

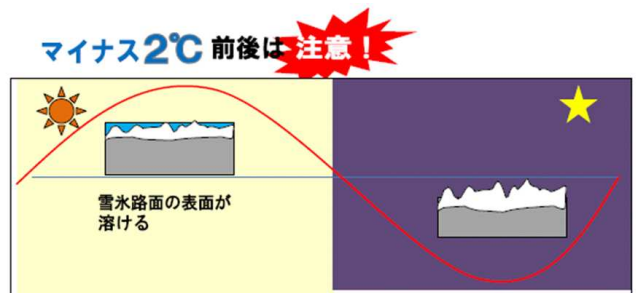
冬靴といっても全く滑らない靴はありません。防滑性能を強調した靴底にもいくつかのタイプがあります。購入時には、お店で普段歩く路面状況との適正についてアドバイスを聞くことも大切です。

冬の靴(靴底)のパターンは…

- ① 金属ピンタイプ
  - アイスバーンに強い
  - ✕ 床タイルでは滑りやすい 摩耗しやすい
- ② 深い溝タイプ
  - 金属ピンタイプ
  - 湿雪でのグリップ力強い
  - ✕ アイスバーンで滑る
- ③ 柔らかいゴムタイプ
  - スタッドレスタイヤの 効果あり
  - ✕ 経年劣化のリスクがある
- ④ 滑り止め配合ゴム
  - 深い溝タイプ
  - ガラス繊維・アルミ粒子・セラミックなどは効果あり
  - ✕ 配合材により大差 購入時には分らない

※転倒災害防止プロジェクトチーム「滑りにくい靴モニター結果」より

## 気象状況と転倒の関係



## 「労働災害発生状況（平成25年1月～12月）」

- ・ 死亡労働災害： 5 件（前年比 + 4 件）
- ・ 休業 4 日以上： 124 件（前年比 + 5 件）

業 種		当月受付	当年累計	前年同期	対前年同期		
					増減数	増減率	
製 造 業	食料品	水産食料品		3	2	1	50.0%
		上記以外の食料品	1	13	12	1	8.3%
	繊維・衣服その他繊維製品				5 (3)	-5	
	木材・木製品、家具・装備品	2	6	8	-2	-25.0%	
	パルプ・紙、印刷・製本						
	化学工業						
	窯業土石		1	1	0	0.0%	
	鉄鋼業、非鉄金属						
	金属製品		1	1	0	0.0%	
	一般機械器具		1		1		
	電気機械器具						
	輸送用機械製造		1	1	3	-2	-66.7%
	電気・ガス						
	その他の製造	1	2	3	-1	-33.3%	
小 計	4	28	35 (3)	-7	-20.0%		
鉱 業			1		1		
建 設 業	土木工事	2	6	8	-2	-25.0%	
	建築 工事	鉄骨・鉄筋家屋		4 (3)	4	0	0.0%
		木造家屋		8	9	-1	-11.1%
		その他の建築工事		3	2	1	50.0%
	その他の建設		5	4	1	25.0%	
小 計	2	26 (3)	27	-1	-3.7%		
運 輸 交 通 業	道路貨物運送業		7 (1)	5	2	40.0%	
	その他の運輸交通業			1	-1		
貨物取扱							
農 林 業	農業						
	林業	1	13	7	6	85.7%	
畜 産 水 産 業	畜産業		5	11	-6	-54.5%	
	水産業		5	7	-2	-28.6%	
商 業	小売業	1	8	8	0	0.0%	
	その他の商業		2 (1)	1	1	100.0%	
通 信 業			5 (4)		5		
保 健 衛 生 業	社会福祉施設		4	4	0	0.0%	
	その他の保健衛生業		1		1		
接 客 娯 楽 業	旅館業						
	飲食店		1	2	-1	-50.0%	
	その他の接客娯楽業			3	-3		
そ の 他	ビルメンテナンス業		1		1		
	その他(上記以外の全ての業種)	3	17 (2)	8 (3)	9	112.5%	
合 計		11	124 (11)	119 (6)	5	4.2%	

(注) 労働者死傷病報告による休業 4 日以上の統計である。内は死亡者数(内数)である。

( )内は交通労働災害者数(内数)である。「今月分」は、当月報告受付件数(内数)である。

＝＝

このニュースへのお問い合わせは 二戸労働基準監督署 0195-23-4131まで。